

巻頭言 第3サイクルへ向けて

平成30(2018)年度から 新評価システムで実施



公益財団法人
日本高等教育評価機構 理事長
黒田 壽二

この度の熊本地震で被災された大学、被害を受けられた皆様に心からお見舞い申上げるとともに、復興と更なるご発展を祈念しております。

平成29(2017)年度省令改正への対応

本年3月31日付けで文部科学省令が改正され、来年度から、三つの方針の策定・公表とSD(Staff Development)の機会を設けることが義務化されました。この2点については、平成29(2017)年度認証評価の対象となりますので、各大学におかれては適切に対応していただきますようお願いいたします。

平成30(2018)年度からを第3サイクルに

認証評価制度は、第3期となる平成30(2018)年度からは、大学教育等の質的転換や内部質保証の確立の状況を重視した評価制度に転換することが求められ、そのための文部科学省令(細目省令)が平成28(2016)年3月31日付けで公布されました。

当機構は、この公布を踏まえて第3サイクルの評価システムの運用を1年前倒しし、平成30(2018)年度～平成36(2024)年度を第3サイクルとすることにしました。それに伴い、現行の評価システムの大幅な見直しを行い、本年度中に新評価システムを構築し、平成30(2018)年度

から新評価基準での機関別認証評価を実施することとしました。新評価基準については、現在、判定委員会等にて審議を重ねており、確定し次第、ホームページや説明会等でお知らせいたします。

役員等の改選により新体制へ

当機構は、本年6月23日の役員・評議員の任期満了に伴う役員等の改選が行われ、同日から新たな体制がスタートしました。誰からも信頼される評価機関として更に努めて参る所存です。

現在、多くの高等教育政策が同時並行的に動いております。社会構造の変化に伴い、これまでのモノ創りの時代から知的財産を発信していく時代になっていきます。教育方法も変わっていく中で、私立大学等の活性化が従来にも増して重要となります。

私達は、認証評価が、評価のための評価にならないように努めるとともに、それぞれの大学の特性や多様性が発揮され元気になるようなシステムづくりを目指します。ピア・レビューの精神に基づき、認証評価が各大学の改革・改善のきっかけになり大学活動がより一層活性化することを望んでいます。

今後とも、会員校はじめ関係各位の一層のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

C O N T E N T S

巻頭言⇒第3サイクルへ向けて	1	大学教職員のためのよくわかる認証評価	6
報告⇒平成27(2015)年度 評価結果	2	平成28(2016)年度 事業計画	7
インタビュー⇒(株)進研アド 田村隆憲氏	4	From JIHEE	7
STUDY・評価システム⇒調査報告書と評価報告書	5	役員等名簿	8
委員会レポート⇒自己点検・評価実施委員会	6	会員校	8

69大学・2短大・1研究科の評価を実施

平成27(2015)年度は、大学・短期大学機関別認証評価と、新評価システムで初めてのファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価を実施し、63大学・2短期大学・1研究科と再評価1大学を「適合」と判定しました。

■基準2「学修と教授」で「優れた点」が多数

当機構は、平成27(2015)年度に68大学、2短期大学、1ファッション・ビジネス系専門職大学院の認証評価と1大学の再評価を実施し、結果を公表しました(表1)。

「適合」とした63大学のうち、31大学・1短期大学に対しては、指摘のあった「改善を要する点」について、平成28(2016)年4月1日から起算して3年以内に改善報告書等を当該大学・短期大学のホームページに公表するとともに、各判定委員会委員長への提出を求めました。

5大学への「保留」は、「大学評価基準」を満たしていないが、1年以内に満たすことが可能であると大学評価判定委員会が判断したものです。5大学には平成29(2017)年度に当機構で再評価を受けることを求めました。

なお、機関別認証評価を受けた大学のうち2大学と2短期大学は、それぞれ同一法人内の大学と短期大学という「同時受審」でした。

機関別認証評価では、各大学・短期大学の取組みに対し、今年度も多くの「優れた点」が公表されました(表2に一部を掲載)。特に基準2「学修と教授」において、教育課程や学生サービスを高く評価された大学・短期大学が目立ちました。「優れた点」は、当機構が毎月配信する「公益財団法人日本高等教育評価機構メールマガジン」において、平成27(2015)年度の事例を基準項目ごとに順次紹介していますので、ご参照ください。

「改善を要する点」は、基準2と基準3「経営・管理と財務」、「参考意見」も基準2での指摘が多くありました。

■「独自の基準」は全大学・短大が設定

機関別認証評価においては、当機構が定める四つの「評価基準」以外に、各大学・短期大学がその使命・目的や個性・特色に沿って、自ら基準を設定し、自己点検・評価をすることが求められています。規定の評価基準を基本的・共通的な事項に限定することで、認証評価の効率性を高め、大学・短期大学の個性・特色をより重視しようと、平成24(2012)年度からの新評価システムで取入れられました。

平成27(2015)年度は、全ての大学・短期大学で「独自の基準」の設定がありました。「社会連携・地域連携」「地域連携・貢献」など、社会・地域との連携や貢献についてのものが多数を占めたほか、「『聖徳教育』と『新しい聖徳教養教育』(聖徳大学)、「本学が使命とする『地域社会の生活を支える専門的職業人の育成』の適切性」(美作大学)など、使命・目的、個性・特色をダイレクトに基準名に込めた大学もありました。

「独自の基準」は、四つの「評価基準」と同様に、評価チームによる調査を行います。が、「基準を満たしている」「基準を満たしていない」の判定は行わず、特筆すべき点、不十分な点などの「概評」を評価報告書に記載しています。

表1 平成27(2015)年度 評価結果の概要

●大学機関別認証評価

「適合」 63大学 (☆は「改善報告書」の提出を求めた大学)
愛知産業大学／大阪樟蔭女子大学／☆大阪保健医療大学／☆大手前大学／☆川村学園女子大学／関西国際大学／関西福祉科学大学／☆吉備国際大学／金城大学／☆久留米工業大学／甲南女子大学／神戸国際大学／☆作新学院大学／☆四国学院大学／静岡産業大学／☆四天王寺大学／☆秀明大学／尚美学園大学／☆昭和音楽大学／女子栄養大学／仁愛大学／鈴鹿医療科学大学／成安造形大学／☆星城大学／聖徳大学／☆相愛大学／☆崇城大学／☆第一工業大学／☆高松大学／☆宝塚大学／☆千葉商科大学／☆東海学院大学／☆東京有明医療大学／東京音楽大学／☆東京成徳大学／☆東京富士大学／東都医療大学／東北芸術工科大学／☆長崎ウエスレヤン大学／長野大学／名古屋産業大学／☆日本医科大学／日本工業大学／日本体育大学／☆人間環境大学／☆人間総合科学大学／比治山大学／☆姫路獨協大学／弘前医療福祉大学／☆広島経済大学／広島工業大学／広島国際大学／広島都市学園大学／びわこ学院大学／文化ファッション大学院大学／平成国際大学／☆北海道科学大学／松本大学／☆松本歯科大学／美作大学／宮崎国際大学／☆武蔵野学院大学／☆横浜薬科大学

「保留」 5大学

昭和大学／名古屋経済大学／名古屋女子大学／広島国際学院大学／平成音楽大学

再評価

「適合」 1大学 ※()内は認証評価実施年度
種智院大学(平成25(2013)年度)

●短期大学機関別認証評価

「適合」 2短期大学 (☆は「改善報告書」の提出を求めた大学)
☆東海学院大学短期大学部／びわこ学院大学短期大学部

●ファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価

「適合」 1研究科
文化ファッション大学院大学

表2 機関別認証評価における「優れた点」の例

基準 1	平成18(2006)年度より、更なる明確化が計られた育成すべき人材像(学生像)「『ゼロから立ち上げる』興動人」は、大学の個性・特色を学生はもとより、学内外に広く周知・印象付けるための適切な判断・表現であり、本人材像(学生像)の更なる体現化に向けた全学的な取組みは高く評価できる。	広島経済大学
基準 2	独創的な問題解決能力C-PLATS® 開発教育システムを構築し、その開発教育の手法としてPBL(問題解決型学修)とSDL(自己主導型学修)を全ての科目において実施することを方針とし、シラバスにも反映させている点は高く評価できる。	大手前大学
	防災用井戸水浄化装置の設置により、震災などの災害時に学生だけでなく地域住民へも供給可能な飲料水を確保するなど、地域への貢献を含んだ取組みを行っており、高く評価できる。	日本工業大学
基準 3	学長方針に基づき各委員会及び事務局管理職が年度当初に実施計画書を作成し、毎月その進捗状況について業務報告書を作成、学長に報告した後、全教職員にも公開されている点は高く評価できる。	静岡産業大学
基準 4	教員、職員とも目標管理による成果主義を導入し、組織目標と個人目標とのリンクを明確にすることで、自己点検・評価のサイクルが円滑に回っていることは高く評価できる。	東北芸術工科大学

■専門職大学院評価は新システムで初めての実施

ファッション・ビジネス系専門職大学院の評価は、カリキュラムや教員組織などに重点を置く分野別評価として、機関別認証評価とは異なる評価基準で行われます(表3)。評価対象は文化ファッション大学院大学ファッションビジネス研究科の1研究科です。

当機構は、平成22(2010)年度に初めて同研究科を対象にファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価を実施し、その後、平成26(2014)年度に評価システムの改定を行ったので、今回は新評価システムで初めての評価となりました。同研究科は、独自の教育課程や研究設備について優れていると評価され、同時に受けた大学機関別認証評価とともに「適合」と判定されました。

なお、当機構では、認証評価のフォローアップ事業の一つとして、当該年度の評価結果や今後の対応についての相談業務を行っています。平成27(2015)年度は2大学がこの制度を利用しました。

表3 ファッション・ビジネス系専門職大学院評価基準(平成26年度改定)

基準 1	使命・目的等
基準 2	教育課程
基準 3	学生
基準 4	教員
基準 5	教育研究環境
基準 6	自己点検・評価

■25大学35件の改善報告書等を審議

当機構の過年度の認証評価において、改善報告書等の提出を条件として「認定」または「適合」と判定された大学のうち、25大学から35件の改善報告を受けました。改善報告等審査会で2回にわたって審査し、その後の大学評価判定委員会での審議の結果、11大学13件を「改善が認められた」、10大学12件を「概ね改善が認められた」、10大学10件を「改善が認められないので、継続的な改善が求められる」としました(表4)。審査結果は「留意事項」(留意すべき事項があると判断された場合のみ)とともに、大学へ通知しました。

改善報告の内容は、平成23(2011)年度までの認証評価を受けた15大学では、その全てが基準7(管理運営)又は基準8(財務)、又はその両方に関することが含まれました。平成24(2012)年度以降は「改善を要する点」に対して改善報告が求められます。基準項目2-1(学生の受入れ)に関するものが最も多く、8件でした。

表4 改善報告書等の審査結果

() は、平成23(2011)年度までの認証評価では改善報告の内容に該当する基準、平成24(2012)年度以降は基準項目

「改善が認められた」11大学13件

〈平成22(2010)年度認証評価〉
大阪芸術大学(基準7)/千里金蘭大学(基準7)/八戸学院大学[旧八戸大学](基準9)/東日本国際大学(基準8)

〈平成24(2012)年度認証評価〉
事業創造大学院大学(基準項目4-3)/日本教育大学院大学(基準項目3-1、3-3)/四日市看護医療大学(基準項目3-4、4-3)

〈平成26(2014)年度認証評価〉
岡山商科大学(基準項目3-4)/国際医療福祉大学(基準項目2-1)/修文大学(基準項目1-2)/プール学院大学(基準項目2-1)

「概ね改善が認められた」10大学12件

〈平成22(2010)年度認証評価〉
健康科学大学(基準8)/山陽学園大学(基準8)/聖泉大学(基準8)/羽衣国際大学(基準8)/八戸学院大学[旧八戸大学](基準8)/北海商科大学(基準7)/八洲学園大学(基準8)

〈平成24(2012)年度認証評価〉
サイバー大学(基準項目2-1、3-6)/事業創造大学院大学(基準項目2-1、3-6)/日本教育大学院大学(基準項目3-6)

「改善が認められないので、継続的な改善が求められる」

10大学10件

〈平成22(2010)年度認証評価〉
上野学園大学(基準8)/岡山学院大学(基準8)/至誠館大学[旧山口福祉文化大学](基準8)/鈴鹿大学[旧鈴鹿国際大学](基準8)/千里金蘭大学(基準8)/苫小牧駒澤大学(基準8)

〈平成24(2012)年度認証評価〉
日本教育大学院大学(基準項目2-1)/別府大学(基準項目2-1)/明海大学(基準項目2-1)

〈平成26(2014)年度認証評価〉
岡山商科大学(基準項目2-1)

大学等の学生募集支援などを行う株式会社進研アド^{※1}の代表取締役社長・田村隆憲氏に、高校・大学両方の視点からの認証評価について伺いました。田村氏は、3ポリシー^{※2}は大学にとって差別化のチャンスであり、認証評価も時代に合わせて変化すべきと提言します。

※1 株式会社進研アド ベネッセホールディングスのグループ会社。大学等の学生募集や改革の支援を主事業とする。

※2 3ポリシー ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを指す。



田村隆憲氏
株式会社進研アド 代表取締役社長
株式会社ベネッセコーポレーション
高校事業部勤務を経て、株式会社
進研アド 営業本部長。
平成28(2016)年4月より現職。

長く高校の進路指導を見てこられたご経験から、高校教員の認証評価への認知度をどう見られますか。

高校の進路指導担当の先生の多くは、大学に認証評価があることはご存じです。しかし、それがどのようなもので、どこに公開されているのかといったことは、ほとんど知られておらず、進路指導に組込まれるまでには至っていません。

ただ、高校の進路指導では、ここ2年ほどでいわゆる3ポリシーの浸透度が急速に高まっており、大学を選ぶ際に重要な情報になっています。大学の中身を重視するようになったという点で、認証評価への関心度を上げられる可能性も大いにあります。

高校は、偏差値だけではなく幅広い情報を求めており、そのニーズは年々高まっています。認証評価が持つ財務状況などの情報は、非常に貴重ですので、良い結果なら大学はもっとアピールすべきです。

来年度からは、3ポリシー相互の一貫性が求められることとなります。大学の状況はいかがでしょう。

大学にとっては差別化の大きなチャンスですが、現状は同じように見える大学が多いのが実情だと思います。また、アドミッションポリシーで「幅広い視野を持つ人」とうたっているのに入試は1科目のみなど、実情との整合性に欠けるものもあり、高校からは大学の意図が見えないとの声が聞こえてきます。

高校では特にアドミッションポリシーを重視します。これは、入試に直結するため生徒にとっては一番ほしい情報であり、指導がしやすいためです。そこから就職、

カリキュラム、と見ていきますので、アドミッションポリシーを起点にして3ポリシーに一貫性が見えることは非常に重要です。

大学の「評価疲れ」をどう見ますか。

確かに、特に中小規模の大学ではスタッフが少ないので、通常業務に加えて認証評価を受けるのは非常に大変だと聞いています。ただ、評価疲れというのは、評価を受けた結果が活用できていないから起こるものだと思います。認証評価が自らの組織の改善サイクルの中に位置づけられれば、疲れよりむしろやりがいになるのではないのでしょうか。

認証評価を活用できていない大学では、認証評価を受ける人と、その結果を活用する人や広報する人の連携がうまくいっていないのではと拝察しています。評価結果を受止めて経営及び教学の改善を検討される上層部と、ステークホルダーへの発信という直近のアクションを担う広報担当では、どうしても評価の活用時間に時間差が生じてしまいます。

また、2回目の認証評価で、1回目と同じようなことを報告書にして提出し、同じような評価をされることは負担を感じる要因です。前回良かった項目は省略するなど、評価全体を縮小する方向性はあっていいと思います。

大学改革を支援する立場として、評価機関に要望はありますか。

まずは、個々の大学に合わせた評価を行ってほしいと思います。特に、私立大学の“改革のエッジを立てていく”部分にフォーカスして、一律のフォーマットの中ではなく、大学の目指している方向をきちんと評価することが望ましいです。その結果が学内で共有・周知され、事業計画に反映される仕組みができれば、大学改革は進むでしょう。

もう一つは、グローバル化への対応です。今後は、大学は海外からの学生の受入れを拡大させることが必要になりますので、そこを認証評価にどう反映させていくかは気になります。時代に合わせた評価のあり方を考えていただきたいと思います。

調査報告書と評価報告書

当機構が作成する報告書について説明します。報告書案を含めると四つの種類がありますが、これらは評価のどの段階にあるかでその構成が異なります。

■調査報告書「案」は評価チーム作成

評価チームが書面調査、実地調査を経て作成する報告書は「調査報告書案」です。判定委員会の審議を経ていないため、「判定」（「適合」「不適合」「保留」のいずれか）、基準ごとの評価結果（「満たしている」「概ね満たしている」「満たしていない」のいずれか）、基準項目ごとの評価結果（「満たしている」「満たしていない」のどちらか）は記されていません。

基準項目にある「優れた点」「改善を要する点」「参考意見」には、冒頭が「○」で記されるものと、「・」で記されるものがあります。「○」は社会的に公表されることを前提として記載されています。「・」は公表されない前提で、評価チームとして評価対象校にのみ伝えたいことが示されています。「○」か「・」かは、この段階では評価チームの判断によります。

対象校は「調査報告書案」に対して意見申立てをすることができます。

■判定委員会の判断で内容変更もあり

「調査報告書案」に対する意見申立てを受けて、判定委員会が作成するのが「評価報告書案」です。「評価報告書案」は社会に公表する「評価報告書」の原案になります。判定委員会は対象校からの意見と、それに対する評価チームの対応案を踏まえ審議し、「評価報告書案」を作成します。また、その年の全ての対象

校の「調査報告書案」を比較し、必要に応じて「評価報告書案」に反映します。評価結果や公表される指摘の重さ、内容などに対象校間の不整合が出ないようにするためです。これらのことから「調査報告書案」と「評価報告書案」では内容が変わることがあります。

例えば、「調査報告書案」では「改善を要する点」であった指摘が「評価報告書案」では「参考意見」になったり、公表されない「・」であった指摘が公表される「○」になったりすることもあります。必要に応じて文言や表現の調整も行われます。

これらの審議を経て判定委員会は評価の判定を行いますので、「評価報告書案」には、「判定」と基準・基準項目ごとの「評価結果」が加わります。併せて、公表されない指摘「・」は外されます。

対象校は、この「評価報告書案」に対しても意見申立てをすることができます。提出された意見は、判定委員会の下部組織である意見申立て審査会で審議します。判定委員会は意見申立て審査会の見解を踏まえ、もう一度前回と同様に審議と全対象校間での調整を行います。その結果、作成した「評価報告書」は理事会での承認をもって確定となります。同時に「調査報告書」も確定となり「評価報告書」とともに、対象校に送付されます。評価チームの「調査報告書案」における公表されない指摘「・」に対する意見申立てへの反映については、「調査報告書」で確認することができます。

表 当機構が作成する四つの報告書・報告書案とその内容

名称	作成者	判定 「適合」 「不適合」 「保留」	基準ごとの 評価結果 「満たしている」 「概ね満たしている」 「満たしていない」	基準項目ごとの 評価結果 「満たしている」 「満たしていない」	公表する指摘 「優れた点」 「改善を要する点」 「参考意見」 に「○」で記載	公表しない指摘 「優れた点」 「改善を要する点」 「参考意見」 に「・」で記載	備考
調査報告書案	評価チーム	無	無	無	有	有	判定委員会を経ていないので、「判定」「評価結果」がない。
評価報告書案	判定委員会	有	有	有	有	無	意見申立てなどを踏まえ判定委員会が作成する。公表する報告書の原案となる。
評価報告書	判定委員会	有	有	有	有	無	意見申立てなどを踏まえ判定委員会が作成する。報告書として社会に公表される。
調査報告書	判定委員会	有	有	有	有	有	全ての内容を含む。大学にのみ送付、非公表。

当機構、初の自己点検・評価を実施



自己点検・評価実施委員会 委員長
相良 憲昭
公益財団法人
日本高等教育評価機構 副理事長

大学等の評価機関の一つとして、文部科学省によって認証された日本高等教育評価機構（以下、『機構』といいます）は、初の自己点検・評価を行うことを決定し、昨年4月1日付けで自己点検・評価実施委員会を発足させました。

高等教育機関の評価に携わる人たちは、しばしば「評価する者は評価されなければならない」といいます。これは認証評価機関として、「まず愧（かい）よりはじめよ」という意味もさることながら、機構が創設以来10年余りの間に蓄積してきた、高等教育機関に対する評価の理念や方法を自らの身に応用させることによって、それらの妥当性や適切性を改めて検証し、解決すべき課題を抽出することを目指しています。そして、これらの結果を、第

3サイクルを迎えようとしている機構の認証評価活動の改善や発展に生かそうとするのが、この自己点検・評価の趣旨なのです。

機構の自己点検・評価は以下の13の基準について、適切性、明確性、有効性、誠実性、機構内外への周知などの視点に立って行われています。すなわち、基準1：（機構の）目的、基準2：機関別認証評価、基準3：分野別認証評価、基準4：調査研究、基準5：国際性、基準6：広報、基準7：会員、基準8：関係機関、基準9：管理運営、基準10：財務、基準11：施設・設備、基準12：事務局、基準13：自己点検・評価です。

この自己点検・評価の活動には、機構の全職員が積極的に参画しており、図らずもOJTの役割も同時に果たしているといえます。

自己点検・評価報告書は、平成28年度中に完成して、理事長に提出する予定です。さらにこの自己点検の延長上で、しかるべき時期に外部機関による評価も受けることが予定されています。

大学教職員のためのよくわかる認証評価

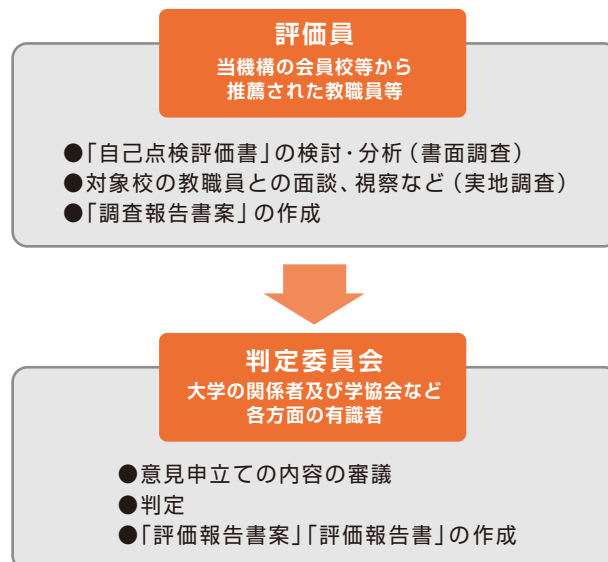
認証評価は遠い存在—という教職員の方に向けて、基礎事項を解説します。

誰が、どのように評価しているのか

実際の評価活動は、「評価員」が行っています。「評価員」とは、当機構の会員校等から推薦された教職員等です。「判定委員会」は、評価対象校1校につき5人程度の「評価員」で「評価チーム」を編制します。「評価員」は、対象校の「自己点検評価書」を調査・分析する書面調査や、実地調査として教職員との面談や視察等を行います。実地調査後、「調査報告書案」を作成します。

これ以降の評価は、「判定委員会」が行います。「判定委員会」は、大学の関係者及び学協会など各方面の有識者によって構成されています。「評価チーム」が作成した「調査報告書案」と対象校からの意見申立てを踏まえて判定を行い、「評価報告書案」を取りまとめます。再度、対象校の確認（必要に応じて意見申立て）を経て、理事会で評価を確定します。

図 評価員・判定委員会の役割



平成 28 (2016) 年度 事業計画

1. 評価事業

平成 28 (2016) 年度は、認証評価 83 校 (大学 80 校、短大 3 校)、再評価大学 1 校の評価を実施します。平成 28 (2016) 年 7 月には平成 29 (2017) 年度の評価申請 (大学、短大) を受付けます。

2. 評価員の養成事業

6、7 月に大学、短大の評価員セミナーを開催します。また、平成 29 (2017) 年度の評価実施のため、評価員候補者が不足する分野を考慮し、今年の 9 月頃新たに評価員の募集を行います。

3. 評価に関する調査・研究

- ①平成 24 (2012) 年度以降の評価システムの検証及び改善
- ②大学の自己点検・評価による内部質保証に関する取り組みなどについて、国内の大学の事例研究と評価システムへの反映の検討
- ③大学の特色を重視した評価方法及び大学のステークホルダーと評価との関連性などについて、国外の大学と評価機関の事例研究と評価システムへの反映の検討

④会員校等の関係者を対象とした「評価充実協議会」(平成 28 (2016) 年 7 月 13 日) の開催

⑤高等教育の質保証や評価に関わる国際的な機関等への加盟及び国際会議への参加

4. 運営機能の充実・強化

①企画運営会議の開催

当機構の目的、将来構想、評価システムの見直し等、今後の方向性について審議します。

②当機構の自己点検・評価の実施

設定した基準に照らして当機構の評価事業及び法人運営全般について自己点検・評価を行い、自己点検・評価報告書を作成します。

③職員等の研修の充実

評価に関する勉強会を開催するとともに、各種学会及び研修会に職員等を積極的に派遣します。

5. 広報及び啓発活動

広報誌の刊行、メールマガジンの配信、ホームページの維持・管理、教育学術新聞などへの情報掲載により、情報発信を強化します。

From JIHEE JIHEE からの連絡・報告などを掲載するコーナーです。

■平成 27 (2015) 年度活動報告

●評価の実施

認証評価 68 大学・2 短期大学・1 ファッション・ビジネス系専門職大学院 / 再評価 1 大学

●セミナー・協議会の開催

- ・「大学・短期大学評価セミナー」
4 月 23 日 (東京)、4 月 28 日 (名古屋)
- ・「評価員セミナー」
大学：6 月 16 日、17 日、19 日、22 日、7 月 2 日、3 日
短大：7 月 2 日、3 日 大学及びファッション・ビジネス系専門職大学院：6 月 29 日 (全て東京で開催)

・「評価充実協議会」

7 月 7 日 (東京)

・「大学・短期大学機関別認証評価責任者説明会」

9 月 15 日 (東京)

・「大学・短期大学機関別認証評価自己評価担当者説明会」9 月 17 日 (東京)

●機能別分化を重視する評価の実施による評価の効率化のあり方に関する調査

韓国・フィリピンの質保証機関及び周辺の大学の訪問調査 3 月 13 日～19 日

■お知らせ

●当機構役員及び評議員改選のお知らせ

平成 28 (2016) 年 6 月に当機構役員及び評議員の任期満了に伴う役員改選が行われました。役員は、新任 4 人を含む 20 人、評議員は新任 4 人を含む 18 人が選出されました。

●JIHEE channel について

当機構が実施する認証評価などについてまとめた動画「JIHEE channel」をホームページで公開しています。6 月に「評価の実施に関わる関係者の役割について」など

新たに動画を掲載していますのでぜひご覧ください。

●海外への情報発信について

当機構では、海外に向けて情報発信の強化を図っています。大学に加えて短期大学及びファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価の評価基準等や平成 27 (2015) 年度評価結果の英訳を当機構ホームページ (英語版) に掲載しています。また、平成 28 (2016) 年 3 月に、英語版の当機構パンフレットを発行しており、全文をホームページに掲載しています。



左右に配置された流線は「地球」と、両手で作る「輪」をイメージしています。大学と社会を結ぶ機構でありたいとの想いを込めました。

Peer (ピア) 第 11 号

平成 28 (2016) 年 7 月 13 日発行

編集人 伊藤敏弘 編集 陸鐘旻 小林澄子 江成一敏 吉野由紀 小貝萌美

発行 公益財団法人 日本高等教育評価機構

所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-11 第 2 星光ビル 2 階

TEL 03-5211-5131 FAX 03-5211-5132 URL <http://www.jiheer.or.jp/>

当機構へのご意見・ご質問や「Peer (ピア)」へのご要望はこちらへお寄せください

✉ hyoukakikou@jihее.or.jp ホームページからもお問合せいただけます

■役員等名簿

(五十音順)

●理事(18人)

- (理事長) 黒田 壽二 (学)金沢工業大学学長・総長
(副理事長) 相良 憲昭 桐蔭横浜大学法学部客員教授
(常務理事) 石井 正彦 (公財)日本高等教育評価機構常務理事
青木 二郎 内幸町総合法律事務所弁護士
石津 和彌 (学)福原学園常務理事、事務局長
内田 茂男 (学)千葉学園常務理事、千葉商科大学名誉教授
大沼 淳 (学)文化学園理事長、文化学園大学学長
奥村 隆平 金城学院大学学長
木村 正裕 徳島文理大学教授・参事
小出 秀文 日本私立大学協会常務理事・事務局長
佐藤 東洋士 (学)桜美林学園理事長、桜美林大学総長
瀬野 隆 (学)国士館常任理事、評議員、国士館大学名誉教授
高柳 元明 (学)東北医科薬科大学理事長、東北医科薬科大学学長
塚本 英邦 (学)塚本学院副理事長、評議員、国際部長、大阪芸術大学副学長、大阪芸術大学短期大学部学長
中山 峰男 (学)君が淵学園理事長、崇城大学学長
西川 博史 北海商科大学大学院研究科長
堀川 徹志 (学)京都外国語大学副理事長
三輪 博美 (学)名古屋電気学園常務理事、経営統括本部長

●監事(2人)

- 齋藤 力夫 永和監査法人代表社員
遠山 耕平 東京国立博物館運営協力会常務理事、平成国際大学学長

●評議員(18人)

- 岡本 輝代志 岡山商科大学学長補佐・経営学部教授
小野 長門 (学)君が淵学園評議員、崇城大学工学部長
北村 憲司 (学)福岡学園常務理事
小出 忠孝 (学)愛知学院学長
鶴 衛 (学)鶴学園理事長・総長、広島工業大学学長
西村 泰志 大阪工業大学学長
野原 明 教育ジャーナリスト
長谷川 明 八戸工業大学学長
濱 健男 (学)桜美林学園法人本部長
濱田 勝宏 (学)文化学園理事、文化学園大学副学長
福井 一光 (学)鎌倉女子大学理事長、鎌倉女子大学学長、鎌倉女子大学短期大学部学長
福井 直敬 (学)武蔵野音楽学園理事長、武蔵野音楽大学学長
森田 嘉一 (学)京都外国語大学理事長・総長
森本 正夫 (学)北海学園理事長、北海商科大学学長
山下 興亜 中部大学学長
吉井 定信 (学)谷岡学園顧問
吉本 成香 (学)東京理科大学常務理事、東京理科大学工学部教授
六鹿 正治 (株)日本設計取締役会長

■会員校

●大学・独立大学院大学 340校 ●短期大学 13校(★印)

●北海道【17校】

- 旭川大学
札幌大谷大学
札幌国際大学
千歳科学技術大学
道都大学
日本医療大学
函館大学
北翔大学
北星学園大学
北海学園大学
北海商科大学
北海道医療大学
北海道科学大学
北海道情報大学
北海道薬科大学
酪農学園大学
稚内北星学園大学
●青森【6校】
青森大学
青森中央学院大学
東北女子大学
八戸学院大学
八戸工業大学
弘前医療福祉大学
●岩手【2校】
富士大学
盛岡大学
●宮城【6校】
尚絅学院大学
仙台大学
東北工業大学
東北生活文化大学
東北文化学園大学
東北医科薬科大学
●秋田【2校】
秋田看護福祉大学
ノースアジア大学
●山形【3校】
東北芸術工科大学
東北公益文科大学
東北文教大学
●福島【3校】
郡山女子大学
東日本国際大学
福島学院大学
●茨城【1校】
筑波学院大学
●栃木【3校】
足利工業大学
国際医療福祉大学
作新学院大学
●群馬【7校】
関東学院大学
共愛学園前橋国際大学
桐生大学
群馬医療福祉大学

群馬/パース大学

- 高崎商科大学
東京福祉大学
●埼玉【19校】
浦和大学
共栄大学
埼玉医科大学
埼玉学園大学
十文字学園女子大学
尚美学園大学
女子栄養大学
西武文理大学
東邦医療大学
東邦音楽大学
日本医療科学大学
日本工業大学
日本保健医療大学
日本薬科大学
人間総合科学大学
平成国際大学
武蔵野学院大学
明海大学
ものつくり大学
●千葉【15校】
愛国学院大学
植草学園大学
江戸川大学
開智国際大学
川村学園女子大学
神田外語大学
三育学院大学
秀明大学
聖徳大学
清和大学
千葉科学大学
千葉経済大学
千葉工業大学
千葉商科大学
麗澤大学
●東京【42校】
上野学園大学
桜美林大学
大妻女子大学
嘉悦大学
国立音楽大学
国士館大学
新潟青陵大学
昭和大学
杉野服飾大学
高千穂大学
多摩大学
帝京大学
帝京科学大学
帝京平成大学
東京有明医療大学
東京音楽大学
東京家政学院大学

東京工科大学

- 東京純心大学
東京女子体育大学
東京聖栄大学
東京成徳大学
東京造形大学
東京富士大学
東京未来大学
東京理科大学
桐朋学園大学
二松学舎大学
日本医科大学
日本歯科大学
日本獣医生命科学大学
日本女子体育大学
日本体育大学
日本文化大学
ハリウッド大学院大学
文化学園大学
文化学園大学短期大学部★
文化ファッション大学院大学
武蔵野音楽大学
目白大学
ヤマザキ学園大学
SBI 大学院大学
●神奈川【15校】
神奈川工科大学
鎌倉女子大学
鎌倉女子大学短期大学部★
産業能率大学
松蔭大学
昭和音楽大学
昭和音楽大学短期大学部★
星槎大学
洗足学園音楽大学
田園調布学園大学
日本映画大学
八洲学園大学
横浜商科大学
横浜創英大学
横浜薬科大学
●新潟【5校】
長岡大学
新潟医療福祉大学
新潟経営大学
新潟国際情報大学
新潟青陵大学
●山梨【3校】
健康科学大学
身延山大学
山梨学院大学
●富山【3校】
高岡法科大学
桐朋学園大学院大学
富山国際大学
●石川【7校】
金沢学院大学

金沢工業大学

- 金沢星稜大学
金城大学
北陸大学
北陸学院大学短期大学部★
●福井【2校】
仁愛大学
福井工業大学
●長野【5校】
佐久大学
諏訪東京理科大学
長野大学
松本大学
松本歯科大学
●岐阜【6校】
朝日大学
岐阜経済大学
岐阜女子大学
中京学院大学
東海学院大学
東海学院大学短期大学部★
●静岡【4校】
静岡英和学院大学
静岡産業大学
静岡福祉大学
静岡理工科大学
●愛知【32校】
愛知学院大学
愛知学泉大学
愛知工科大学
愛知工業大学
愛知産業大学
愛知淑徳大学
愛知東邦大学
愛知文教大学
愛知みずほ大学
桜花学園大学
岡崎女子大学
金城学院大学
修文大学
福山女子学園大学
星城大学
大同大学
中部大学
東海学院大学
同朋大学
豊橋創造大学
名古屋音楽大学
名古屋外国語大学
名古屋経済大学
名古屋芸術大学
名古屋産業大学
名古屋女子大学
名古屋造形大学
名古屋文理大学

日本福祉大学

- 人間環境大学
名城大学
●三重【4校】
鈴鹿大学
鈴鹿医療科学大学
四日市大学
四日市看護医療大学
●滋賀【5校】
成安造形大学
聖泉大学
びわこ学院大学
びわこ学院大学短期大学部★
びわこ成蹊スポーツ大学
●京都【12校】
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都学園大学
京都華頂大学
京都嵯峨芸術大学
京都情報大学院大学
京都造形芸術大学
種智院大学
花園大学
佛教大学
平安女学院大学
明治国際医療大学
●大阪【36校】
大阪青山大学
大阪大谷大学
大阪音楽大学
大阪音楽大学短期大学部★
大阪河崎リハビリテーション大学
大阪観光大学
大阪経済大学
大阪経済法科大学
大阪芸術大学
大阪芸術大学短期大学部★
大阪工業大学
大阪国際大学
大阪歯科大学
大阪樟蔭女子大学
大阪商業大学
大阪成蹊大学
大阪体育大学
大阪電気通信大学
大阪人間科学大学
大阪保健医療大学
関西医療大学
関西外国語大学
関西福祉科学大学
滋慶医療科学大学院大学
四條学園大学
四天王寺大学
摂南大学
千里金蘭大学

太成学院大学

- 帝塚山学院大学
常盤会学園大学
梅花女子大学
羽衣国際大学
東大阪大学
ブール学院大学
森ノ宮医療大学
●兵庫【16校】
芦屋大学
大手前大学
関西国際大学
関西福祉大学
甲子園大学
甲南女子大学
神戸医療福祉大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸常盤大学
神戸山手大学
宝塚大学
宝塚医療大学
姫路獨協大学
兵庫大学
兵庫大学短期大学部★
●奈良【2校】
奈良大学
奈良学園大学
●岡山【11校】
岡山学院大学
岡山商科大学
岡山理科大学
環太平洋大学
吉備国際大学
倉敷芸術科学大学
くらしき作陽大学
作陽音楽短期大学★
山陽学園大学
中国学園大学
美作大学
●広島【11校】
エリザベト音楽大学
比治山大学
広島経済大学
広島工業大学
広島国際大学
広島国際学院大学
広島都市学園大学
広島文化学園大学
広島文教女子大学
福山平成大学
安田女子大学
●山口【6校】
宇部フロンティア大学
山陽小野田市立山口東京理科大学
至誠館大学

東亜大学

- 徳山大学
梅光学院大学
●徳島【1校】
徳島文理大学
●香川【2校】
四国学院大学
高松大学
●愛媛【1校】
松山東雲女子大学
●福岡【16校】
九州栄養福祉大学
九州共立大学
九州国際大学
九州情報大学
久留米工業大学
純真学園大学
西南女学院大学
聖マリア学院大学
神戶国際大学短期大学部★
西日本工業大学
日本経済大学
福岡工業大学
福岡こども短期大学★
保健医療経営大学
●佐賀【1校】
西九州大学
●長崎【4校】
長崎ウエスレヤン大学
長崎外国語大学
長崎国際大学
長崎総合科学大学
●熊本【5校】
九州看護福祉大学
熊本保健科学大学
尚絅大学
崇城大学
平成音楽大学
●大分【2校】
日本文理大学
別府大学
●宮崎【3校】
宮崎経済大学
南九州大学
宮崎国際大学
宮崎産業経営大学
●鹿児島【4校】
鹿児島純心女子大学
第一薬科大学
志学大学
第一幼児教育短期大学★
●沖縄【3校】
沖縄キリスト教学院大学
沖縄国際大学
名桜大学